

# 「しあわせの書 迷探偵ヨギ ガンジーの心霊術」

泡坂 妻夫著

久しぶりに、探偵の出てくる小説を読みました。作者の訃報と共に新聞に紹介されていたのがこの本で、書評や後書きを読むと、どうも本に仕掛けがあるらしい。主人公はヨガの達人で心霊術のトリックに詳しいガンジー先生、なのですが、彼は主人公なのにポイントでちよろつと出てくるだけ。二番弟子で『猫をも殺す好奇心』のかたまりの美保子がメインになって物語がどんどん展開してゆきます。タイトルをみて「宗教の本？」と思ったのですが、やはり、舞台は新興宗教の内部の様子。教祖の後継者を決定する審査にガンジー先生達が審査員として巻き込まれてしまいます。しかしその審査には邪魔者を消すためのある仕掛けがあったのです。ガンジー先生はその巧妙な罠から偶然逃れることができませんでしたが、「その契機がなかったらきつと命を落としていたかもしれない」とこちらが心配になるほど、探偵らしくない探偵なのです。この小説は人が本当に死ぬという事がなく、主人公と二人の弟子、不動丸と美保子はとても明るく元気です。こんなに明るい探偵小説は初めてで面白かったです。仕掛けのことは後書きを読んで思い出しました。残念ながら自力で見つけることはできず『インターネット検索』という反則技を使いました。「本当に？」と思い、その仕掛けを確認。そこで初めて「!!!すごい」と感動できました。その後、2〜3回読み返して、やっとヒントが書いてあることに気づくことができました。

F  
N



新潮文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞